



六郷中だより

六郷中学校だより 第2号

令和 4年 5月20日

発行・文責：校長 深澤裕治

<六中HP>



身近な小さな争いごとをなくしていきたい！

山若葉が深い緑へと変わり、麦の穂が色づき始める季節となりました。そんな爽やかな5月の風が体育館の窓から吹き抜ける中、生徒総会が先日開催されました。生徒総会の開催に先立ち、生徒たちには「今日の第1回生徒総会をもって、六郷中の生徒会活動が本格的にスタートします。なぜなら全校生徒が一堂に会して、六郷中のよりよい未来に向けて、生徒一人ひとりが考えを互いに発表し、全員で確認するからです。一人ひとりの発言に込められた思いを想像しながら、今日の生徒総会に参加してみてください」と校長としての願いを伝え、生徒総会の話し合いが始まりました。

生徒会本部からは、今年度の生徒会活動の方向性として『同じ目的で力を合わせ、心を一にし魅力ある学校をめざして、楽しい学校生活となるよう頑張っていきましょう』と提案され、さらには3つの活動重点としての『日常生活の充実』『他学年との交流』『ボランティア活動の充実』のそれぞれの具体的な活動内容の原案をもとに、活発な討議が深められていきました。

そんな討議の中で、感心させられた場面がありました。生徒会本部からの活動重点『ボランティア活動の充実』の具体的な取組『支援を必要としている人たちへの支援活動に、積極的に協力していく』の提案に対して、生徒から「ロシアとウクライナが争っています。六郷中でもウクライナの人たちに対して、何か支援をしたいです」との要望の意見発表がありました。その意見をきっかけに、ボランティア活動の充実に向けて、さらに議論が深まるよう、生徒会本部から全校生徒に、次のことについて、参加者一人ひとりに考えてほしいと、改めて提案がなされました。

『ウクライナへの支援として、私たちができること、またはしたいこと』

『どのような取組をすれば、平和について考えることができるか』

しばらく生徒たちは生徒会本部からの提案について考え、中には隣どうして相談しながら考えをまとめ、いよいよ発言の意思のある生徒の手が挙がり、全校生徒の前での発表です。

「ウクライナについて、戦争について知ることが大切」「自分の意見をもつことが大切」

「ウクライナで起きていることをもっと考えたい」「平和のありがたみをもっと知るべき」

「今のこの生活のありがたみを知ることが大切」「募金をしていきたい」

「ニュースを注意して見ていきたい」「本で戦争の怖さを知りたい」

「普通に生活していることに意味がある」「身の回りの生活を大切にしたい」

「大きな戦争だけではなく、私たちの身近な小さな争いごとをなくしていきたい」

など、生徒たちの願いの込められたたくさんの考えが、全校生徒の前で堂々と発表されるとともに、発言の後には、今まで以上の大きな拍手が5月の体育館に響きました。

今回、生徒たちがウクライナへの侵攻について、そして平和についてしっかりと向き合い、互いの考えを発表し合ったウクライナの国旗は、広大な大地に広がる麦畑と青空を表し、豊かな国土を意味するそうです。

まもなく麦の穂が黄金色に色づき、麦秋の時季を迎えます。

